

		入職前職員	新任職員	中堅職員	上級職員	基幹的職員
社会人として求められる力	協調性		挨拶や声掛けができる。 相手にも配慮した言動により職場に感情的な対立を持ち込まない。 人の選り好みなく誠実と和を大事にする。 上司及び先輩の意見をしっかりと聞き入れる。	自分一人では業務を行えないことを理解し、部署内外の人と協力して業務にあたることができる。 部下や同僚に積極的に声を掛けチームワークの向上に貢献する。	部署内の業務のバランスを考え、業務量の最適化を図る。 部署内を調整し円滑に業務が遂行されるようにする。 情報の重要性、組織の機能を理解し、業務が円滑に進むよう関係者全員と情報を共有する。	協調性が必要であり、一人では仕事はできない事を施設全体に浸透させる。 施設内の各部署、各人と交流し施設全体を盛り上げる。
	規律性		遅刻や欠勤をせず職場のルールを守る。 明示されていないルール（マナー）も意識した行動をする。	施設全体の中での部署の役割を理解する。 職層下位の者から見られていることを自覚し恥ずかしくない行動をする。	規律違反に対してしっかりと注意する。 日頃の行いを大切にする職場風土の醸成に貢献する。	各部署や各人の役割を理解し、施設内の仕事の進め方の秩序を保つように施設内をまとめていく。 部下の規律性に反する行動に威厳を持って適切な指導や注意をする。
	積極性		自己研鑽に努め、既存業務を自ら進んで身につける。	部署内での業務遂行にあたり、上司や先輩に相談しながら積極的に業務範囲を広げる。 依頼された仕事を前向き引き受け行動に移す。	急な業務、方針変更にも柔軟に対応し、同僚らと協力して業務を遂行する。 既存の仕事の進め方にとらわれずに改善して同僚らと協力して業務を遂行する。	施設全体の活性化のための方策を従来のやり方にとらわれずに提案し実行する。
	責任性		指示された仕事を最後まで同僚や先輩と協力して期日通り行う。 仕事の選り好みをせず自分の役割を確実に果たす。	部署内での業務遂行にあたりどういう貢献及び責任を果たすことができるか、上司や先輩に相談する。 後輩の指導育成を行なう立場であることを認識し、後輩の業務に対して随時フォローを行なう。	後輩を指導育成し、その成長に責任を負う。 部署全体のスケジュールを立案、調整して期日を守る。	直接関わっていないくても、上司として部下の仕事に責任を負う。 施設内の状況、業務のバランスを踏まえ、部下の育成を行い良い人材を育てる。
児童養護素説職員として求められる力	人材育成の基本		SVの意義など、人材育成の重要性を理解する。	専門性の向上を図り続ける姿勢が後進のモデルとなる。	専門性のさらなる向上に努め施設の模範となり、人材育成に関与する。	施設内の研修体系の策定をリードする。
		SVを受けることの意義を理解する。	自身の研修計画をSVに相談しながら設定し実施する。	SVを受けるとともに新任職員にSVを実施する。	SV体制の構築やカンファレンス体制等、OJTが活発に展開できるよう施設の体制整備に寄与する	SV体制の構築やカンファレンス体制等、OJTが活発に展開できるよう施設の体制を整備する。
					実践で得た知見やエビデンスを整理、分析して発信する。	地域ブロック等の人材育成、研修計画にも関与する。
	資質と倫理	施設の理念を知っている。	施設理念に則した実践をしている。	施設理念に沿って、自らの実践をふりかえることができる。	施設理念に基づいた実践について後輩職員や外部の方に説明できる。	施設理念を施設運営の中核に据えている。
		心身の健康について理解し、自身の健康管理ができる。	心身の健康について理解し、自身と子どもの健康管理が出来る。	健全な生活を営む養育者として子どもや新任職員のモデルとなる。	身体的健康と人格的成長に努め、子どもと職員のモデルとなる。	職員の心身の健康と人格形成に寄与し、勤務体制等ワークライフバランスに配慮し適正化を図る。
			施設等の倫理規定を理解しそれに沿った実践を行う。	自らの実践を倫理規定に沿って振り返り、資質向上を図る。	倫理規定等についてよりよい規定にむけた提案をする。	職員の資質向上を図るため、自治体や政府に具体的な提案をする。
	権利擁護 子どもの	子どもの権利擁護について理解する。	子どもの権利擁護について理解し、実践に反映させる。	子どもの権利擁護を生活のあらゆる場面で展開し、新任職員のモデルとなる。	人権擁護を生活のあらゆる場面で展開し、全ての職員のモデルとなる。	子どもの権利擁護の推進を施設内外で図る。
		守秘義務と必要な情報共有について理解する。	個人情報保護について正しく理解し、実践する。	個人情報保護について理解を深め、情報を適切に扱う。		
	知識	身体的発育、心的発達について知っている。	生活を豊かにするための衣食住の知識を習得する。	安全で安心できる暮らし、回復と育ちを促すための生活環境を学ぶ。	安全で安心できる暮らし、回復と育ちを促すための生活環境を他の職員に伝える。	最新の理論や知見を積極的に学ぼうとする施設文化を醸成する。
	子どもの支援技術	傾聴、共感、肯定的評価など基本的姿勢を理解する。	傾聴、共感、肯定的評価について理解し実践できる。	子どもの危機的状況（混乱、自傷他害など）に対応できる。	子どもの危機的状況（混乱、自傷他害）に即時に対応し、SVできる。	子どもの危機的状況（混乱、自傷他害）に適切に即時対応し、予防についてSVできる。
			家庭的養育と個別的支援の意義を理解する。	家庭的養育と個別的支援についてSVを受けながらその質的向上を図る。	家庭的養育と個別的支援について質的向上を図るとともにSVできる。	
			カンファレンスやSVを通して子ども理解を深めることができる。	アセスメントをより適切に行い、SVを受けながら自立支援計画書主体的に作成できる。	カンファレンスを主導するなど、アセスメントをより適正に行い、SVできる。	ケースのアセスメントをリードし、自立支援計画の策定と実施を監督する。
チームアプローチと機関協働	社会的養護に携わる専門職を知る。	職員同士が支え合っている実践であることを理解し、チームの一員としての自覚と役割を認識する。	他の専門分野の役割を理解し、協働を図るなど、職員が支え合う文化の構築を図る。	チームアプローチが機能するための体制の充実を図るとともに、自身の立場の影響を認識して負の影響が生じないように配慮する。	職員のメンタルヘルスに気を配り、施設長に相談しながら適切に対応する。	
	社会的養護と連携する機関を知る。	児相や学校などの機関の役割を理解し実践に生かす。	児相、学校などとのより良い連携の在り方についてSVと共に検討し実践に生かす。	児相、学校などとのよりよい連携について施設をリードする。	必要な機関との合同カンファレンスができる体制を整備し、必要に応じて改善できる。	